

アフリカ建設市場における 中国の台頭

－ 地場企業への影響に関する一考察 －

徳織 智美

はじめに

2002年にカナダで行われたG8カナナスクス・サミット以降、連続して「アフリカ問題」がG8会合の主要なテーマとして位置づけられている。その中で生まれた「アフリカ行動計画(AAP: Africa Action Plan)」には、総合的社会インフラストラクチャー(以下、インフラ)の再整備やアフリカ産業の強化等が優先課題に挙げられており、現在まで、モノ・ヒトの流通を促進する新たな交通網の建設や既存の道路の再整備に多大な投資が向けられてきた。このインフラ投資によりサブサハラ・アフリカ(以下、アフリカ)の建設業にも大きな利益が生み出されると考えたいが、現実としては、現地企業のプロジェクト遂行能力の欠如により、大型プロジェクトのほとんどが非アフリカ系の建設企業によって落札されている。

近年、この状況に大きな変化をもたらそうとしているのが、アフリカへの中国建設企業の進出である。この過去10年間の高度経済成長による資

源、特に原油に対するニーズから、現在、中国はアフリカ諸国の資源獲得を目的としたインフラ整備に膨大な資金を投じている。Foster et al.[2008]によると、アフリカ・インフラ・プロジェクトに対する中国の資金面でのコミットメントは、2001-2003年では年間平均10億米ドル以下、2004-2005年で年平均約15億米ドル、そして中国政府が「中国の対アフリカ政策文書」を出した2006年には70億米ドルまで増加している^{†1}。これは、2006年のOECD諸国のアフリカ・インフラ・プロジェクトへのコミットメント額である50億米ドルと比べると一国としては多大な支援となる^{†2}。

†1 2006年1月、中国政府は初めて「中国の対アフリカ政策文書」を発表し、今後、アフリカと戦略的パートナーシップを構築していくための基本原則および支援の方向性を明確にした。

†2 この援助は、現在、35カ国以上のアフリカ諸国に向けられており、特にナイジェリア、アンゴラ、スーダン、エチオピアが主要な供与先となっている。



このインフラ投資の累増に伴い、中国の建設企業が、今までアフリカ建設市場を占めていたヨーロッパ諸国およびアフリカ中進諸国に取って代わり、アフリカ経済の根幹に戦略的に食い込もうとしている。

現在まで、中国とアフリカの関係および中国進出によるアフリカ経済への影響に関する文献は徐々に増えてはいるが、この中国によるインフラ投資によって、地場の建設企業にどのような影響が及ぼされているかについては、近年まであまり議論されてこなかった。本稿においては、新興ドナー国・中国のアフリカ建設企業への影響を近年発表された数少ない既存の文献を基に概観し、今後の実証研究へつなげることを目的としている。

1. 中国によるアフリカへのインフラ投資の現状

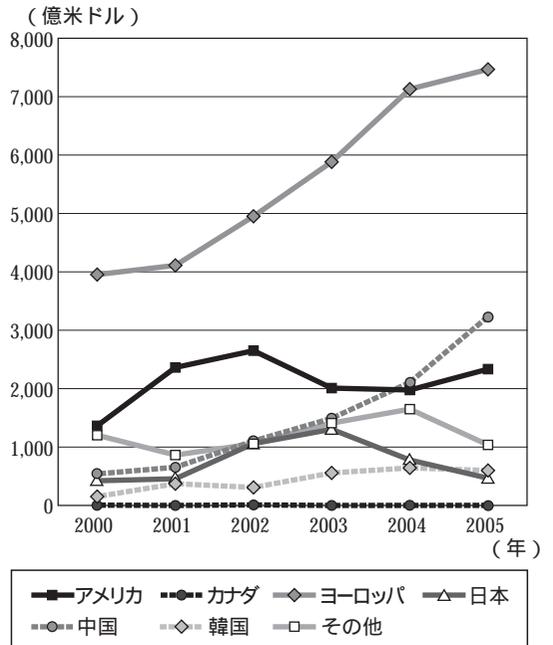
上述のように、近年におけるアフリカでの中国のプレゼンスは、旧宗主国であるヨーロッパ諸国のアフリカ開発における位置づけを変容させる勢いを持っている。Wang and Bio-Tchané[2008]がIMFのデータから概算した数字では、2001年の中国 アフリカの貿易総額が100億米ドル以下だったのに対し、2006年には550億米ドルまでに増加している。この間、アフリカの中国への輸出ならびに中国からの輸入においても、それぞれ平均40%と35%の伸びを記録しており、2006年現在で、中国がアメリカ、EUに次ぎ第3位の貿易相手国となっている。

また、アフリカに対する直接投資額も貿易と並んで右肩上がりの伸びを示しており、2000年の上半期に年間5000万米ドル足らずだったものが、2004-2005年にかけては年間約4億米ドルにまで増加している(Foster et al.[2008])。直接投資に占

めるインフラの割合は出されていないが、アフリカ建設市場における国別主要コントラクターの総契約額の推移を見ると、中国は2004年の時点で、アメリカを抜き、EU諸国のフランスに続く契約実績を誇っている(図1参照)。

この中国の進出を後押ししているのは、中国国内の企業に向けられた中国政府による政治的そして財政的優遇措置であり、コンセッション・ローン(譲許的借款)を唯一提供できる中国輸出入銀行(中国の三つの政策銀行の一つ)がその中心に置

図1 アフリカ建設市場における国別主要コントラクターの総契約額の推移



(注) Engineering News-Record(ENR)で選ばれた国際コントラクターの契約額を基に推計されている。

(出所) The CRIOCM2007 International Symposium on Advancement of Construction Management and Real Estate 8-3 August 2007, Sydney Australiaで発表された“An Empirical Analysis of Chinese Construction Firms' Entry into Africa”(Chen et al.[2007])より引用。

かれている(Davies[2008])^{†3}。本銀行は2007年中旬までにアフリカの約300のプロジェクトに資金援助をしており、その約8割がインフラ開発に投じられたものである(ICA[2007])。また、2006年11月に開催された「第3回中国・アフリカ協力フォーラム」では、「北京行動計画(2007-2009年)」が採択され、その中で中国政府は三つから五つの経済特区(SEZs)をアフリカ大陸に拡大することを確約し、中国企業の誘致を積極的に行っている^{†4}。

以上のように、中国による戦略的アフリカ進出の地固めが着々と進んでいる。最近では、中国開発銀行がナイジェリアを拠点とするアフリカの最大手銀行であるユナイテッド・バンク・オブ・アフリカ(UBA)と業務提携を結ぶことを取り決めた。また、中国工商銀行は、南アフリカ資本のスタンダード銀行の株式20%を約56億米ドルで買収し、さらなるインフラ投資のための資金を拡大している。Foster et al.[2008]によると、アフリカが必要とする年間インフラ投資額220億米ドルに対して、現在、年間100億米ドルが不足していると言われている。今後、中国が、このギャップを埋める中心的な担い手になるのは間違いないだろう。

2. 中国建設企業とその競争力

中国は1978年末より実施し始めた改革開放政策以降、特にこの10年間で目覚ましい経済成長を遂げている。この成長が中国の国内建設市場の拡大にもつながり、1990年代後半より中国は建設ブームを迎えることになる。特に2008年北京オリンピック開催、2010年上海万博開催などの国家的事業もあり、中国土木建設産業は1999年以降、年平均成長率20%を記録し、質・量ともに世界の建設市場の中でその存在感を示している^{†5}。

2007年版『中国統計年鑑』によれば、2006年の時点で6万166社の土木建設企業が中国に存在し、約2878万人の雇用を創出している。その中で中国建設市場の牽引力になっているのは、政府と一体化している国有企業であり、全企業数のわずか9%から総生産高の約22%を生み出している。表1の中国建設産業の主要経済指数を見ていくと、2006年の総生産高は4万1557億元(うち利益は1193億元)となっており、対前年度比で20%強の伸びを示している。しかしながら、利益率は2005年、2006年共に約3%と、かなり低く抑えられている。また、建設企業が中国市場の一部(都市部の高層ビル建設)で飽和状態になっているとも指摘されており、海外に目を向ける民間企業が増加しているのも事実である。近年、世界銀行(以下、世銀)とアフリカ開発銀行による公共事業の国際入札の30%以上が中国の建設企業によって落札されており、この状況からも中国建設企業の

†3 中国輸出入銀行によるコンセッション・ローン(譲許的借款)には融資原則として、「融資対象となるプロジェクトは、中国企業が実施すること」「原則的には資材源の50%以上を中国から調達する」等が取り決められている。

†4 中国政府主導によるSEZsは、「開発援助」として位置づけられており、既に、モーリシャス、ザンビア、ナイジェリア、エジプトが指定されており、タンザニアもそれに加わる予定である(Davies[2008:26])。

†5 米建設専門誌 *Engineering News-Record(ENR)* の2005年度の世界建設会社ランキングトップ225社のうち、中国建設企業はトップ10に4社、全体で46社入っている。

表 1 中国建設産業の主要経済指数

| | 2005年度 | 2006年度 | 前年度比 増加率(%) |
|------------------|--------|--------|----------------|
| 企業数(社) | 58,750 | 60,166 | 2.4 |
| 従業員数(万人) | 2,700 | 2,878 | 6.6 |
| 建設機械および機器数(万セット) | 880 | 897 | 2.0 |
| 総生産高(億元) | 34,552 | 41,557 | 20.3 |
| 労働生産性(付加価値ベース/元) | 23,427 | 25,741 | 10.0 |
| 総利益(億元) | 907 | 1,193 | 31.6 |

(出所)『中国統計年鑑』[2007]より筆者作成。

競争力の強さがうかがえる(Foster et al.[2008])。

3. アフリカ建設市場への中国企業の進出とその影響

アフリカにおける中国のインフラ投資に関する論文および報告書は、国際機関を中心に多く出ているが、インフラ開発によるアフリカの「建設ラッシュ」が及ぼす現地建設企業への影響については近年まで議論されてこなかった。しかし、2006年にステレンボッシュ大学・中国研究センターが、英国国際開発省(DFID)の委託を受けてアフリカの建設およびインフラセクターにおける中国企業の活動および地場の建設企業に与える影響に関する調査研究を発表した。また、同年に世銀によってアフリカ主要国を対象に実施された調査研究の一部が2008年 *Africa's Silk Road* として出版され、その中でアフリカ建設市場における中国・アフリカ双方の競争および補完関係に関して概観している。また、2006年1月にロシアで開催されたワークショップ、ならびに2007年8月にオーストラリアで開催された国際会議において、アフリカの建設産業における中国のプレゼンスに関する発表がなされている^{†6}。筆者が把握する限

りでは、アフリカの建設産業における中国進出の影響に関してまとめられている調査研究結果の発表および報告書は以上である。以下では、これらの少ない既存文献からアフリカにおける中国建設企業の優位性と地場企業に与える影響について概観する。

アフリカ建設市場における中国建設企業の価格面での優位性に関しては、前節で若干触れているが、実際はどの程度の競争力を持っているのか。労働力に関しては、中国での日雇い建設労働者の1日の最低賃金が1~1.5米ドルなのに対して、アフリカの日雇い建設労働者はその2分の1ないしは3分の1程度と言われている。また、中国のエンジニアに支払われている額は、ヨーロッパの

†6 オーストラリアの発表は図1の(注)を参照。ロシアでのワークショップ“*Asian and other Drivers of Global Change*,” St. Petersburg, Russia, January 19-21, 2006では Emmy Bostenが“*China's Engagement in the Construction Industry of Southern Africa: the Case of Mozambique*”を発表。ドイツ開発機構(DIE)のウェブサイト([http://www.die-gdi.de/CMS-Homepage/openwebcms3_e.nsf/\(ynDK_FileContainerByKey\)/ADMR-7B7HWH/\\$FILE/EmmyBosten.pdf?Open](http://www.die-gdi.de/CMS-Homepage/openwebcms3_e.nsf/(ynDK_FileContainerByKey)/ADMR-7B7HWH/$FILE/EmmyBosten.pdf?Open) 2008年11月20日閲覧)

建設企業が現地のカウンターパートに支払っている額の約1割～2割弱であり、熟練技術者に関しては他国の企業を寄せ付けない価格の優位性を持っている。中国産資材に関しては、一つのケースで見ると、アンゴラ産のセメントが1袋(50キログラム)10米ドルするのに対して、中国産は4米ドルと半額以下である。このような資材の価格格差から中国企業の1平方メートル当たりの建設価格は、ヨーロッパ企業の4分の1程度だと言われている。また、これらのファクターに加えて、中国企業の競争力を増強するのは利益率の低さである。アフリカ建設市場での国際入札では、アフリカや他の外資系建設企業の利益率が15～25%であるのに対して、中国は10%以下の額を提示してくる。タンザニアの中国国有企業においては、ほとんどのプロジェクトの利益率が5%前後で抑えられており、企業の利潤より市場拡大を重視する姿勢が見て取れる。

技術面での優位性に関しては、先行研究からは明確になっていないが、建設施工の技術および能力は、中国の上位国有建設企業であれば、他の先進国とそれほどの差はないというのは注5の説明からも理解できる。しかしながら、ステレンボッシュ大学の調査によれば、建築基準、コード、規制に関する法的機能が整備されている国およびプロジェクトにおいては、中国の施工および品質水準は高く評価されているが、この建築関連の法的枠組みが整備されていない国、または政府にプロジェクトのモニタリングおよび評価をする機関が欠落している場所においては、施工および品質にクレームが出ているケースが多いという結果が出ている。入札時には利益率を抑えてきても、施工の段階で法の隙間を潜りながら利潤を上げていこうとする中国企業の強かな戦略的手法をここに垣間見ることができる。

では、これらの優位性を持つ中国建設企業と地場の建設企業はどのような関係にあるのか。中国の企業自体はアフリカ地場企業が持つ人材のキャパシティおよび技術的熟達度の低さ、そして管理および財政面での問題等により、ジョイント・ベンチャーへの関心は非常に低いとされている。また、その事例も少ない。現在、中国建設企業と地場建設企業の関係は、日雇い建設労働者の雇用および中小建設企業との下請け関係が一般的であるが、そこに職業訓練の機会や技術移転等はまだ見られていない。日雇い建設労働者の雇用に関しては、中国国有企業のほとんどが85～95%の労働力を現地で調達しているが、その多くが最低賃金以下で雇われているという調査結果が出ている。

以上の事からまとめると、現在までの中国建設企業の進出による地場建設企業への影響としては、非熟練層(日雇い建設労働者)の雇用創出には貢献しているが、アフリカ建設産業を牽引している中小建設企業の成長を促すような企業間関係はまだできていないと考える。また、中国企業が持つ価格面での優位性は、現在の国際入札での競争を激化させるものであり、将来的には競争力を持たない地場建設企業が淘汰される可能性も否めない。更に、アフリカ建設産業が受ける総体的な影響を考えた場合、今後増加するだろう中国からのカネ・モノ・ヒトの流入により、地場企業に潜在し得る資本形成、技術の向上、ならびに人材育成のための自力が損なわれ、将来的にアフリカ建設産業全体の後退を招く可能性も出てくるだろう。

おわりに

先行研究が示すように、中国建設企業は、独自のサプライ・チェーンを使い、資金、資材、技術、労働力、そして政治的影響力という武器を持って

アフリカに進出してきている。この中国企業が持つ競争力は、アフリカの建設企業が到底太刀打ちできるものではない。技術面においても、過去10年間の中国の高度経済成長を通して蓄積された経験が、世界市場でも十分通用する質の高さを生み出している。この中国のプレゼンスは、アフリカの建設企業との競争以前に、今までアフリカ建設市場をリードしてきたヨーロッパ諸国およびアフリカ中進諸国の存立を脅かすものである。よって、中国政府と一体化した国有建設企業が参入する国際入札はより競争が激しくなり、アフリカ建設企業は以前にもまして国際入札への参入が困難になってくる。また、近年、建設市場が飽和状態になりつつある中国からの民間企業の進出も顕著化しており、小規模な民間プロジェクトに関しても競争が増してくることが予想される。

では、この中国の進出によって一層激化しているアフリカ建設市場の中で、競争力を持たないアフリカ企業が生き残っていくにはどうすればいいのか？ 中国建設企業のアフリカ進出を後押ししているのは紛れもなく中国政府である。この政府主導型で作上げられた中国企業の優位性に対抗するには、アフリカ諸国においても政府の介入しかなないと考える。もちろん、政府による産業保護政策には負の側面があることは否めないが、中国政府から提示されるコンディショナリティーに対して、アフリカ諸国においても地場の建設企業を守るためのコンディショナリティーを示していく必要がある。中国の対アフリカ支援をそのまま受け入れるのではなく、中国建設企業の進出による

地場企業への負の影響を最小化し、その恩恵を最大に享受できるような中国企業との建設的パートナーシップを模索することが今後の大きな課題となってくるだろう。

【参考文献】

- 中華人民共和国国家統計局編 [2007] 『中国統計年鑑』中国統計出版社。
- Broadman, Harry G. [2007] *Africa's Silk Road: China and India's New Economic Frontier*, Washington, D.C.: The World Bank.
- Center for Chinese Studies (CCS) [2006] *China's Interest and Activity in Africa's Construction and Infrastructure Sectors*, Stellenbosch: CCS, Stellenbosch University.
- Chen, Chuan, Pi-Chu Chiu, Ryan J. Orr, and Andrea Goldstein [2007] "An Empirical Analysis of Chinese Construction Firms' Entry Into Africa." (<http://www.cepii.fr/anglaisgraph/communications/pdf/2007/190907/goldsteinS4.pdf> 2008年11月20日閲覧)
- Davies, Martyn [2008] *How China Delivers Development Assistance to Africa*, Stellenbosch: CCS, Stellenbosch University.
- Foster, Vivien, William Butterfield, Chuan Chen, and Nataliya Pushak [2008] *Building Bridges: China's Growing Role as Infrastructure Financier for Sub-Saharan Africa*, Washington, D.C.: The World Bank.
- The Infrastructure Consortium for Africa (ICA) [2007] *Annual Report 2007*, Tunis: ICA Secretariat.
- Wang, Jian-Ye and Abdoulaye Bio-Tchané [2008] "Africa's Burgeoning Ties," *Finance and Development*, Vol.45, No.1, pp.44-47.

(とくおり・ともみ / 北海道大学大学院経済学研究科専門研究員)